

安河内 信之氏

令和2年度国立市市民表彰

教育文化功勞



安河内信之

平成19年9月 国立剣道連盟所属
平成21年4月～ 国立剣道連盟理事
平成28年4月～ 国立市体育協会会計監査

剣道を始めたきっかけと国立剣道連盟に加入したきっかけについて教えてください。

中学と大学で7年間剣道を学びました。武士道というものに憧れがあったのだと思います。大学卒業後は、稽古から全く離れていましたが、2009年、49歳の時に国立に移り住みました。偶々、世間はリーマンショックの翌年で景気はどん底。会社の売上の半分を負う立場で苦しみました。すがるような気持ちで、自分の残りの人生に思いを致し、ネットで探した国立剣道連盟（愛称、国剣）の門を叩いたのが、剣道を再開するきっかけになりました。

国立剣道連盟や体育協会での活動について教えてください。

国立剣道連盟（以下、国剣）では、子どもたちに寄り添い、心を育む剣道を目指しています。剣の修行と共に武道の精神、日本の伝統文化、相手を尊重する礼儀作法を子どもたちに伝えます。稽古と併せて運動能力を高めるトレーニングにも取り組んでいます。教える先生方は若い人たちが中心となり、彼らも子どもの頃から国剣で剣道に親しんできた高段者ですので、子どもたちの兄貴分、同じ学校の先輩と後輩のような文化を作っています。

私は体育協会では、会計監査を務めています。

剣道の魅力について教えてください。

剣道では、刀を抜くと自分以外には頼るものではなく相手と対峙します。どんな名人も、相手を斬ろうとする技の起こりには隙ができます。相手を攻め切ったつもりで打ちに出ても、そこで相手が起こりを待ち構えているツボにハマることは多々あります。最後は、自分を信じ、自らを捨てる覚悟で力を出し切るしかありません。剣道はこの覚悟を決める練習を日々の稽古でやっているようなものです。稽古で学ぶ「覚悟する練習」は、人生の困難な場面で生きてきます。それが汲めども尽きない剣道の魅力です。

地域における剣道競技の今後について

国剣は、会員にとり拠り所となる道場です。大会や昇段審査に向けて共に切磋琢磨し、レクレーションなども通して交流を深め、団結した仲間を作ります。武道の精神から相手を思いやるきもちと正しい知識をもって、成長して社会に貢献できる人材を育む場として大切な役割を果たしていくと思います。



▲国立剣道連盟のみなさん